かみまち
農業委員会だより

加美町農業委員会
加美町字長檀７５番地２（☎ 67-5411）
第11号
平成25年2月15日発行

「よ～いドン！」田んぼの雪を踏み固めて作った一周150㍍ほどのコースで人間ばん場？コースの終盤には小山も作られ体力自慢の子ども達も倒れこみのゴールでした。
＝石母田ふるさと保全会「雪上運動会」より＝

農家の幸せ

加美町農業委員会
会長　兎原 伸一

「幸せとは何か？」農家を対象に聞いたアンケートが農業新聞に載っていた。10点満点の幸福度は平均6・7点であった。10年前と比べると農家の生活は悪くなっていると答えた人が多い中、この厳しい現状を考えると高い点数である。

幸せかどうかを考える時に、ほとんどの人が重視するのは「経営の安定」や「労働に対する十分な所得」であろう。しかし、現実にはとても満足しているとは思えない。

幸せを感じる場面で多かったのは、家族や地域の連帯感、食を通じた消費者との交流などであった。そして、望むことは、経営や収入の安定、家族の健康と当たり前のことを当たり前にできることであった。

地域に住む仲間や消費者とのつながり、地域を大切にしたいという思いも強く出ていた。

金銭には代え難い人と人とのつながりが、農家の幸せにつながっていると感じた。

優良農家を表彰

農業委員会では、平成十五年から町の農業振興に大きく貢献された個人を毎年表彰しています。今年は、去る一月二十四日、農業委員会総会時に、中新田地区から平柳の千坂栄喜さん、小野田地区から下区の伊藤忠博さん、宮崎地区から鳥屋ヶ崎の児玉浩一さんが、その功績を認められ表彰されました。

平柳　千坂栄喜さん（44歳）

千坂さんは、水田6・1㌶、畑0・9㌶で、水稲とネギ・白菜を栽培し、また、平柳地区の「平柳アグリサービス組合」では、責任者として活躍している認定農業者だ。

大学卒業後、鳴瀬川土地改良区に勤務していたが、「農業をやるなら早い方が良い」と、平成12年32歳の時に退職して就農し、それまで水稲一本だった経営に、収益性の高いネギと加工用白菜を加えた。

農家の長男とはいえ、農作業の経験は手伝い程度、基礎知識しか持ち合わせていなかった千坂さんにとって、毎日が勉強。失敗を繰り返しながら経験と実績を積み重ねて来た。「それでもまだまだです。毎年天候も違うし、判断を間違えば失敗する。日々勉強です。」と。

今後の目標は？「今は天気に合わせて休みを取るような状態。将来は法人化して給料制・定休制にできればいいですね」と話してくれた。

下区　伊藤忠博さん（44歳）

伊藤さんは、酪農（乳牛32頭・育成牛28頭）を主体に水稲4・2㌶、畑2㌶、草地25㌶を経営する認定農業者だ。高校を卒業後実践大で酪農を学び、20歳の時に就農した。

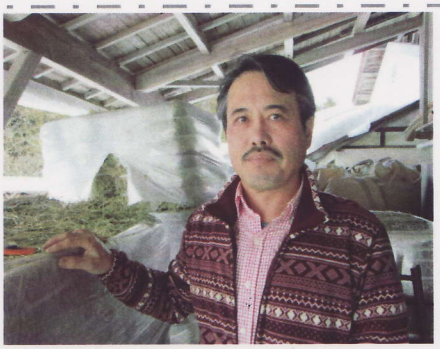
伊藤家は百年以上の歴史を持つ酪農家。代々の教えを伝えながら、父勲さんと20年かけて牛の改良を行って来た。「牛の改良」には「草の改良」、そして、「土の改良」である。二人声を揃えて「自家製の草に勝る餌はない」と言う。

また、生産コストの低減にも力を注いで来た。導入をできるだけ少なくし、自家で育成する。人口授精師の資格を持つ忠博さんの仕事だ。

忠博さんの牛飼いのモットーは『無理をしない』。朝もゆっくり起きて作業開始。搾乳の合間に休む。これが基本だ。

将来の夢は？「60歳になったら酪農を止め、年金をもらって優雅に暮らすこと。後で休めると思うから今頑張れる。そのために、今、年金掛けてるしね。」と笑って答えてくれた。

鳥屋ヶ崎　児玉浩一さん（52歳）



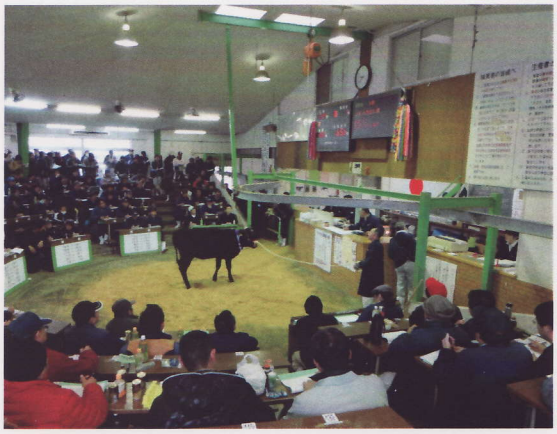
児玉さんは、畜産専業農家で、繁殖和牛26頭を飼育し、年間20頭以上の子牛を生産する認定農業者である。

農家の一人息子である児玉さんは、農業高校を卒業後すぐ迷うことなく就農し、稲作を中心に6頭の繁殖牛を飼育した。転機が訪れたのは15年ほど前。減反面積が増加したことと稲作用の機械の更新時期が重なった時だ。『牛一本に絞ろう』と思って両親に相談したところ、思いもかけず即、快諾を得た。所有する水田と集落の転作引き受け分すべてを牧草にし、牛も増やした。

目標は、『肥育農家が好む牛を作ること』。血統にとらわれず、飼い方を工夫することで飼育しやすく姿の良い牛を生産することだ。また、心配していることもある。繁殖農家の激減だ。高齢化に加え後継者不足により多くの繁殖農家が姿を消した。『今計画されている加美町の放牧場事業が実現され、ヘルパー制度が確立されれば頭数を増やすことも可能かな？それまでは現状維持だね。一人では限界があるから。』と話してくれた。

報告1

自主研修を実施しました！
＝南九州　鹿児島県＝



霧島市姶良家畜市場を見学

加美町農業委員会
視察研修に参加して

宮崎地区　三浦　泉

私たち農業委員が二月六日から二泊三日で、鹿児島県の家畜市場等を視察研修したので報告します。

二月七日に霧島市の姶良（あいら）家畜市場を訪れ、子牛のせりの様子を見学しました。小泉で家畜市場が開催されていた時のことが懐かしく思い出されました。当日の入場頭数は三二〇頭で、平均価格は雌で四十一万七千円、去勢で四十八万円、最高価格は七十八万一千円でした。当日、農業委員の一人が全農を通じてせりに参加し一頭落札しました。加美町で立派に飼育していくことだろうと思います。

二月八日には、知覧特攻平和会館で悲惨な戦争悲話を伺いました。加美町からは今野さんと北村さんという方が国を思い、父母を思いながら戦艦に突撃したという話でした。特攻隊員の遺書や寄せ書きに目頭が熱くなり、平和を祈らずにはいられませんでした。

改選期ということもあり、夜の意見交換も活発に行われ、明日からの農業委員会活動の発展を誓い合いました。結びに、視察研修を企画しました互助会と事務局に感謝申し上げます。

報告2

「男性のための料理教室」を開催しました

鮭のちゃんちゃん焼き・さつまいもとりんごの重ね煮等地場産野菜をふんだんに使った料理に挑戦しました。

男性のための料理教室に参加して

中新田地区　伊藤　淳

男子厨房に入るべからずなどという言葉は、もはや古語になりつつある。今は弁当男子とか、男の料理教室などの塾が開催され、男性の厨房参画を大いに歓迎しているようである。そうした風潮を受け、食に対する意識高揚の一助を担うべく、加美町農業委員会農政調査会主催の男性のための料理教室が開催された。

常にスーツにネクタイという出で立ちの男達が、慣れないエプロンに身を包み、三角巾をかぶった姿はある種異様な光景であるが、そこに参加した料理人達は、普段は握ったこともない包丁を握り悪戦苦闘。しかしながら、皆一応に顔には微笑みを浮かべ楽しい一時を過ごした。

栄養士、食生活改善推進員、三名の研修生をまじえた先生陣の指導のもと、地元の食材をふんだんに使用し、健康に配慮された味付けの料理を共同作業によって自らの手で作り出す楽しさ、完成後の達成感の後押しもあり、皆で舌鼓を打った。

特別に企画しないとなかなか実現できない催しに委員一同その意義と充実した時間に我を忘れ童心に帰った一時であった。

男子おおいに厨房に入るべし…である。

加美町農地賃貸借情報

平成24年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10㌃当たり）は、以下のとおりとなっております。

（平成25年 1 月）

田（水稲）の部

締結（公告）された地域名		支払方法	平均額	最高額	最低額	データ数
中新田地区	基盤整備地域	金納	17,700 円	18,000 円	14,000 円	21
		物納	90 kg	90 kg	90 kg	200
	未整備地域	金納	13,800 円	20,000 円	10,000 円	204
		物納	73 kg	95 kg	40 kg	218
小野田地区	基盤整備地域	金納	14,000 円	14,000 円	14,000 円	146
		物納	69 kg	101 kg	57 kg	65
	未整備地域	金納	14,100 円	22,100 円	11,300 円	45
		物納	73 kg	103 kg	48 kg	91
宮崎地区	基盤整備地域	金納	13,700 円	18,000 円	10,000 円	145
		物納	62 kg	82 kg	51 kg	19
	未整備地域	金納	13,800 円	21,900 円	10,000 円	44
		物納	60 kg	65 kg	58 kg	26
加美町平均		金納	14,000 円			605
		物納	77 kg			619

畑（普通畑）の部

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
中新田地区全域	－円	－円	－円	0
小野田地区全域	5,000 円	5,000 円	5,000 円	1
宮崎地区全域	1,800 円	1,800 円	1,800 円	1
加美町平均	3,400 円			2

＊データ数は、集計に用いた筆数である。
＊金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としている。
＊「加美町平均」の額は、各区分の平均値（四捨五入前）をデータ数により加重平均した値である。

農活雑感

小野田地区　今野　攻

お正月の目玉といえば、初詣、初売り、福袋ではないかと思う。

ある日、何気なくテレビを見ていたら、「農業体験福袋」なる言葉が耳に入ってきた。「え～」と思っていたら、東京・関西の某有名デパートで、それも一社だけじゃなく売り出したとのこと。

都市近郊の農家とタイアップして「お米の栽培体験」「野菜の栽培体験」をそれぞれ福袋として売り出されたということである。

「お米の栽培体験」を例にとると、三〇名限定で一人二〇、一三〇円、田んぼの面積一アール相当、期間は五月下旬から収穫の九月下旬頃まで。田植体験、稲刈体験を各一回、田んぼ見学は随時行う。収穫した米は、自宅に届けられ、精米機もセットに入っているとのこと。

食の安全に対する消費者の関心の高まりに応えて農作業を体験できる企画をされたものだと思われるが、それにしても農業体験を福袋に考えた発想は意外であった。（知らぬは小生のみかな？…ガッカリ）

今年は発想の転換を……と考えさせられた正月の一日でした。

登喜ちゃんと明美ちゃんの

知恵袋

今年の作付計画を立てよう

～連作注意～

2013年を迎え、今年はどの野菜をどの場所に作るのか、作付けプランを考える時期が来ました。2月中にプランを立てて準備に取りかかりたいものです。

まず、基本は

① 作りたい野菜のリストアップ
② 輪作計画を立てる
③ 接木苗や抵抗性品種を使う
④ おいしい野菜は有機質肥料から　などです。

近年、野菜の種類が増加し、品種も増え選ぶのに苦労しがちです。味も違うので、よく調べてから決めたいものです。

次に、問題の連作障害です。近年は病害では半身萎ちょう病、根こぶ病など、虫害ではネコブセンチュウ、ネキリムシなどの被害が目だっています。

① 連作していいものは
さつまいも・カボチャ・コマツナ・タマネギなど

② 1年休閑
ホウレンソウ・コカブ・インゲン・高菜など

③ 2年休閑
ニラ・レタス・白菜・きゅうり・イチゴ・三つ葉など

④ 3年休閑
なす・トマト・ピーマン・里芋・ゴボウなど　です。

どこに何を作ったか記帳しておくことも大切です。さっそく今年から始めてみてください。

《追　伸》

前回紹介した芽が出たタマネギ。今度は外へ出しましょう。畑のすみに植えておけば葉も茎も食べられますよ。　明　美

編集委員
委員長　一條　寛
副委員長　板垣文一
板垣平夫
青砥昭義
伊藤登喜子
畠山明美